

みやぎ生協

●「みんながんばりました。そしてこれからも～

東日本大震災みやぎ生協ボランティア活動のふり返りとこれからの会」

9月2日(火)江陽グランドホテルにおいて、「みんながんばりました。そしてこれからも～東日本大震災みやぎ生協ボランティア活動のふり返りとこれからの会」を、249人の参加で開催しました。

コープこうべ理事長の山ロー史さんによる「大震災からのコミュニティの再生と地域のくらしー不安を安心に変えるために」と題しての学習講演後、コープこうべとコープぎふの皆さんから支援の取り組み、卸町東2丁目仮設住宅自治会前会長、みやぎ生協サポーターとこの間活動に関わっていただいた方々に

ご報告いただきました。

参加者からは、「こんなに全国の皆さんに支えられて活動してきたことがわかり、生協の絆を感じました」「これからも、これまでどおり活動します」と、力強い感想が寄せられました。

東日本大震災発災後の5月から「被災された方々に寄り添い、コミュニティの再生と孤立化防止」を目的に活動に取り組んできました。メンバーによるボランティア活動は、7月までに活動回数2,110回、ボランティアの活動人数のべ16,823人、参加者数のべ78,804人になっています。この活動は、全国の生



講師のコープこうべ山ロー史理事長



活動報告パネルを見学する参加者

協、行政、他団体の皆さまに支えられ、すすめることが出来ました。(生活文化部 須藤敏子)

● 食のみやぎ復興ネットワーク「わたりのそばプロジェクト」～復興亙理そば発売～

震災後、亙理郡でソバの栽培に取り組んでいる生産者を応援する「わたりのそばプロジェクト」。今年8月に撒いたソバは順調に生育し、収穫の秋を迎えることができました。



9/12(金)に開催した「わたりのそばの花見会」

今年も亙理産そば粉を使用した「復興亙理そば」を、みやぎ生協の全店舗と共同購入、JA全農みやぎグループを通じて販売いたします。殻と実をいっしょに挽いた「一本挽き」蕎麦粉を使って田舎そば風に仕上げ、新そばの香り豊かな風味を楽しむことができます。

地域復興を願う、たくさんの方々の思いのこもった「復興亙理そば」をどうぞご利用下さい。



復興亙理そば(2人前)

- ◆価格:480円+税(冷蔵品/賞味期限15日間)
- ◆製造:(株)だいい久製麺(仙台市青葉区)
- [店舗発売日]  
12月11日(木)～31日(水)
- [共同購入]  
注文書回収12月8日(月)～19日(金)  
商品お届け12月15日(月)～26日(金)

(店舗商品本部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝)

みやぎ生協

● 女性ネットみやぎ「学習と交流のつどい」～大飯原発差し止め判決を力に～

宮城県内の幅広い女性たちが参加する「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」(女性ネットみやぎ)の「学習と交流のつどい」が、9月6日(土)仙台弁護士会館において135人の参加で開催されました。

「大飯原発差し止め判決を力に」をテーマに、浦守一樹弁護士に判決内容を分かりやすく解説していただき、学習を深めました。

その後、「船形山のブナを守る会」の小関俊夫さんから「指定廃棄物処分場問題の現状と課題」について、布田秀治さんから「日本基督教団東北地区放射能問題支援室いずみ」の甲状腺検診の取り組み紹介、女性ネットみやぎ事務局長の本田永久子から「女川原発再稼働阻止に向けてわたしたちができること」を報告し、各地の取り組みについて交流しました。

参加者からは、「大飯原発差し止め判決の意義がよくわかりま



浦守一樹弁護士による講演の様子

した」「各地からの報告もこれからの運動の参考になりました」との声をいただきました。

(生活文化部・女性ネットみやぎ事務局 昆野加代子)

宮城県高齢者生協

● 「震災復興支援ツアー」(石巻市～浪江町～南相馬市)

今年も「震災復興支援ツアー」を、9月28日(日)から29日(月)まで、1泊2日で開催しました。遠く福岡県高齢協の17人をはじめ、7都県の高齢協から54人が参加しました。

1日目は石巻市での震災体験を聞き、日和山から市内を展望し、門の脇小学校など津波被害の現地を回りました。

2日目は浪江町に向うバスの中で「生業を返せ、地域を返せ福島原発訴訟団」原告のお話を聞き学習しました。南相馬市で現地の方と合流、JR小高駅には

通学用の自転車がびっしり並んで放射能に汚染されたままの姿。浪江町の許可証を持ち、福島第1原発の煙突が見える4キロ地点の請戸小学校近くまでバスを乗り入れました。流された家も船も転がって3・11そのままです。

その後、南相馬市小高区の江井績さんの自宅で、現在の心境をお聞きしました。江井さんは「地域の除染作業は行われているが大幅に作業は遅れていて、いつになったら全てが終わるのかわからない。除染しても事故前に戻るわけではなく、安心で



ひなたぼっこ石巻で震災体験を聞く

きない毎日だ。日中は出入り自由でも泊まることのできない自宅。子や孫と一緒に暮らそうと思って建てた家なのに悔しい」と、苦悩はなお深くなっています。

高齢協は今後も「震災復興支援ツアー」に取り組んでいきます。(専務理事 山田栄作)